

【開催報告】

ASP第2回目『アーティストについて考える』／小田原のどか（彫刻家/評論家/出版社代表） 2023.7.22(土)15:00-17:00開催分

●アーティストの実践的な学びの場『アーティストスタートアッププログラム』がスタート！

アーティストの成長・交流拠点 Artist Cafe Fukuokaでは、アーティストの方々が実践的に学び次のステップアップにつなげていくためのプログラムとして、『アーティストスタートアッププログラム（ASP）』<https://artistcafe.jp/information/230512/>

をスタートさせました。本プログラムは、全8回の連続講座から構成され、アーティストにとって必要な現代アートの知識やアーティストとしての姿勢、税や契約に関わる部分などを各分野の専門家から学ぶ場となっています。



**Artist Startup
Program 2023**
Artist Cafe Fukuoka

アーティストについて考える
7.22(Sat)15:00-17:00

Guest
小田原のどか Nodoka Odawara
彫刻家 / 評論家 / 出版社代表

●小田原のどか氏（彫刻家/評論家/出版社代表）による

『アーティストについて考える』

ASPのプログラム第2回目は、アーティストがどのような姿勢や心構えで活動を行っているかを知り、自己の展開について考えることをテーマにした、『アーティストについて考える』でした。講師としてお迎えしたのは、彫刻家/評論家/出版社代表と多方面で活躍されるアーティスト、小田原のどかさんです。



小田原さんは彫刻家／評論家／出版社代表であり、筑波大学で芸術学博士を取得されています。

1985年宮城県生まれ。主な著書に『近代を彫刻／超克する』。主な共著に『吉本隆明：没後10年、激動の時代に思考し続けるために』。主な展覧会に「近代を彫刻／超克する 雪国青森編」（個展、国際芸術センター青森、2021年）、「あいちトリエンナーレ2019」などがあります。

2023年9月9日から11月19日まで熊本県にある、つなぎ美術館「小田原のどか 近代を彫刻／超克する—津奈木・水俣編[序]」が開催となります。こちらは小田原さんの公立美術館では初めてとなる個展となります。

会場であるArtist Cafe Fukuokaのギャラリーでは、現地35名の方が参加され、オンラインは30名、アーカイブ視聴は82名の方にご参加いただきました。

小田原さんからは、自分自身のキャリアの作り方、活動の軸となる考えについて、事前アンケートで質問の多かったキャリア形成や、契約・トラブルシューティングなどアーティストとして活動していくにあたって重要な部分について、幅広くお話をいただきました。

その中でも、アーティストとして活動をしていく上で、戦略的ではなく自分自身の必然性を大事にすることが重要であること、人と人との関係性・つながりを大事にすること、自分の興味関心のある分野で同じ考えを持つ人のネットワークを作ること、が大事になる、といったお話をいただきました。

その他、キーワードとして下記が挙げられました。

- 持続可能性を考える
- メンタルヘルスケアの重視
- 助け合いのネットワーク
- アーティスト・ユニオン（現代美術に関わるアーティストによる労働組合）
- Arts and Low（芸術・文化・創造的な活動への無料相談窓口）

講義後の、質問の時間ではアーティストの方から、女性の躍進の後押しするためのアドバイスについてや、美をどう意識されて制作されているのか等、とてもリアルなご質問がなされており、小田原さんのご回答の中で、質問された方の悩みを解釈して解決策を提示してくれたり、考え方についてのアドバイスをいただいたり、アーティスト活動をする上で重要になるヒントが多くあったように感じました。

● 交流会_porriMさんの作品紹介と講評

小田原さんの講義後、会場をコミュニティスペースにうつして、福岡を中心に活動されている写真家ユニットの

porriMさん<https://porrim.art/biography>の作品をporriM岩根さんから紹介いただき、小田原さんから講評をいただきました。

アーティストカフェの壁面スペースには現在、porriMさんの軽トラックをピンホールカメラに改造し、作品制作を行われている稲葉知洋さんと岩根亮太さんに、今まで制作されてきた3組の作品を展示しております。

岩根さんからは、この作品を制作した経緯や作品に対する思い・作品の制作意図などについて、丁寧にご紹介していただきました。

小田原さんからは、現在、写真は複製が容易にできるようになったがポラロイドは複製が出来ない媒体であり、そこに重要な意味があること、作品をより効果的に魅せるステートメントの表現方法など、具体的な講評をいただきました。

その後の交流会の時間も会場内で多くの方々が交流をしていただきました。

ご参加いただきました皆さま本当に有難うございました！！

今回、私たちスタッフ側では開始時間の表記ミスがあり、ご参加の皆様には大変ご迷惑をおかけいたしました。

本プログラムをお申込みいただいた方には、2024年3月末まで、講義部分のアーカイブ視聴をご用意してますので、是非ご活用ください。





porriM (@porrim_official)

稲葉と岩根2人の写真家によるユニット。

“写真から生まれた疑問を写真に還元し作品化する”をコンセプトに活動を行っている。

◇Exhibition

2020年

2月 HASHIRUNDESU / 君の好きな花

7月 時間ヲ積ム / EUREKA

11月 過去作品展 / 渡辺洋服雑貨店

2022年

3月 a moving point P / 大丸福岡天神店

10月 Rim / l'onde

◇Award

2021年 TOKYO FRONT LINE PHOTO AWARD 準グランプリ

アーティストスタートアッププログラムの第3回は、**9月23日(土)16:00-18:00**

Web版『美術手帖』編集長である橋爪勇介さんによる『**メディアを通じて考える現代アートと社会の関係性**』です。

3回目からのご参加も可能です。

多くの方にこの機会を活用し、アーティストとしての次のステップにつなげていただけたらと思っています。

申し込みはこちらから▶ <https://forms.gle/BSUormZVZbCSW5fQ8>



橋爪勇介氏

1983年三重県生まれ。立命館大学国際関係学部卒業。

『新美術新聞』（美術年鑑社）に記者として従事したのち、2016年に美術出版社に入社。

2017年にWeb版「美術手帖」の立ち上げに携わり、副編集長を経て、2019年に編集長に就任。